

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K11098

研究課題名（和文）ダブルケア（育児と介護）を夫婦協働で行う「コ=ケアラー」モデルの開発

研究課題名（英文）Development of a "co-carer" model in which couples work together to provide double care (childcare and nursing care).

研究代表者

寺田 由紀子 (Terada, Yukiko)

帝京大学・助産学専攻科・講師

研究者番号：40738019

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：日本では、ダブルケアを行う女性に大きな負担がかかっているが、その背景には男性が主体的かつ積極的にケアへ参画しにくいという社会的課題がある。そこで、ヨーロッパで、男性のケアへの参画を促す施策にも用いられている「ケアリング・マスキュリニティ」という新しい理論に着目し、研究を行った。「ケアリング・マスキュリニティ」という新しい男性性を測定する尺度（質問紙）を開発した。また、ケアリング・マスキュリニティと男性の健康やセルフケアの関連を明らかにした。ダブルケアに関しては、これらの研究知見を活かし、主催の支援団体における支援活動に積極的に取り組んだ。さらに医療専門職や一般の方へのダブルケアの周知に努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

男性が積極的にケアにかかわる要因として、Elliott(2016)のケアリング・マスキュリニティに着目した。理論をもとに、男性がどのくらいケアリング・マスキュリニティという男性性（男らしさ）を持っているかを調べるための質問紙を開発した。また、ケアリング・マスキュリニティを高くもつ男性は健康にも良い影響を与えていることも明らかにし、男性が積極的に他者のケアに関わることは、自分自身の健康にも良いことを示した。男性自身も「男は仕事、女は家庭」という従来の性別役割分業を越えて育児や介護に参画することは、ケア負担の重い女性の助けになるだけでなく、男性自身にとってもメリットが大きいことが示された。

研究成果の概要（英文）：In Japan, women who double-care for their families bear a heavy burden, and this is due to the social issue of men's reluctance to participate proactively and actively in their care. Therefore, we conducted a study focusing on a new theory called "Caring Masculinity," which is used in Europe as a measure to encourage men to participate in care. We developed a new scale (questionnaire) to measure masculinity called "Caring Masculinity. We also clarified the relationship between Caring Masculinity and men's health and self-care. With regard to Double Care, we used these research findings to actively engage in support activities in the support groups we sponsored. In addition, we worked to promote awareness of double care among health care professionals and the general public.

研究分野：看護学

キーワード：ダブルケア 育児と介護 ケアリングマスキュリニティ 男性の育児と介護 女性の就労継続 夫婦協働 男性のセルフケア ジェンダー平等

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

日本において少子高齢化社会が著しいスピードで進行している。将来の労働力となる子どもの出生数は減少の一途を辿り、女性の初産年齢も30歳を超え、この30年間で4歳も上昇しているとともに高齢出産と呼ばれる35歳以上の出産数は増加している。女性の出産年齢の高齢化は、自身の親世代が高齢者の世代に差し掛かり、育児と介護の両立が求められる可能性があることを示唆している。晩婚化と出産年齢の高齢化によって、親の介護と乳幼児の子育てに直面する「ダブルケア」を行う人が増えている。本研究の目的は、ダブルケア（育児と介護）を行う夫婦の、とりわけ男性側の主体性を高める要因を検討し、夫婦協同のもと育児や介護を行う「コ=ケアラー」モデルの開発を行うことである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、夫婦が協同し、ともに育児や介護を行う「コ=ケアラー」モデルの開発を行い、夫婦が協同しケア力を高める要因を明らかにすることである。「コ=ケアラー」とは、研究代表者の造語であり、ケアをする人という意味の「ケアラー」に協同を意味する「コ(Co)」を合わせ、夫婦それぞれが主体となり協同して育児や介護といったケアを行うという意味である。

3. 研究の方法

研究期間中、COVID-19の流行により、当初計画していた対面でのインタビューを行うことは難しい状況となった。

今回の研究は、とりわけ男性側の主体性を高める要因を検討することも含まれていたため、男性側の主体性を高める要因として「ケアリング・マスキュリニティ（ケアする男性性）」と呼ばれる概念に着目した。

(1) 文献検討

ケアリング・マスキュリニティの研究動向に関する文献検討

検索用語を和文は「ケアリング・マスキュリニティ」OR「ケアする男性性」、英文は「Caring Masculinity」OR「Caring Masculinities」とし、データベースは、CiNii、ProQuest、詳細に医療分野における適用を調べるため 医中誌とPubMedを用いて2010年1月～2020年4月の検索を行った。

児童虐待と男性性の関連についての研究動向に関する文献検討

検索用語を「child abuse(MeSH Terms)」AND「masculine OR masculinity OR masculinities」とした。データベースは、PubMedを用いて2013年6月～2023年6月（過去10年間）の検索を行った。対象となる論文を読み、男性性に関する記述を検討対象とした。

男性の育児休業とケアリング・マスキュリニティの研究動向に関する文献検討

検索用語を「Childcare Leave」OR「Parental Leave」AND「Caring Masculinities」とした。データベースは、PubMed（医療分野）とProQuest（社会学分野）を用いて2014年1月～2023年12月（過去10年間）の査読済み論文の文献検索を行った。対象となる論文中のケアリング・マスキュリニティに関する記述を検討対象とした。

(2) 「ケアリング・マスキュリニティ」の尺度開発

20歳から60歳未満の男性450名を対象として、ケアリング・マスキュリニティ尺度の信頼性と妥当性の検討を行った。妥当性・内的一貫性検証、別の男性55名に対する再テスト、信頼性検証を行った。ケアリング・マスキュリニティ理論(Elliott, 2016)を基に尺度案59項目を作成した。構成概念妥当性は因子分析を行い、各項目得点は、項目が属する因子の総点とは高い相関を示す（収束妥当性）一方、項目が属さない他因子の総点とは低い相関になる（弁別妥当性）と仮定し、項目ごとに因子との間での相関を算出した。基準関連妥当性は既存の3つの尺度との相関を確認した。信頼性はクロンバック、級内相関係数(ICC)を算出した。

(3) ケアに携わる男性側の要因の検討

親の介護を行う就労男性の男性性と介護ケア力の調査

40～60歳の就労し、親（実父母、義父母）の介護をしている男性400名に対し、オンライン調査を行った。新しい男性役割尺度、女性への気遣い4項目、家庭への参加4項目、他者への配慮4項目、強さからの解放4項目の計16項目の7件法、伝統的な男性役割態度尺度、社会的地位の高さ4項目、精神的・肉体的な強さ4項目、作動性の高さ4項目、女性的言動の回避4項目、女性への優位性4項目の計16項目の7件法、介護ケア力、健康を維持する力10項目、健康問題に対処する力6項目、介護する力9項目、社会資源を活用する力5項目、家庭を運営する力12項目、コミュニケーション力5項目、環境を整える力5項目、経済力4項目、家庭内での役割分担を補う力4項目の計60項目の2件法および属性項目（年齢、既婚の有無、子ども数、非介護者の介護度、介護休暇の有無、介護休暇のとりやすさの有無、育児経験の有無）を統計学的処理にて結果を導き出した。

ケアリング・マスキュリニティが身体的健康・精神的健康に及ぼす影響

20 - 59 歳の男性 350 名に対する調査を、ケアリング・マスキュリニティ尺度、身体的健康・精神的健康を測定する質問紙を使用し、実施した。主要変数間の相関関係は、Spearman の順位相関係数、マンホイットニー-U 検定またはクラスカルウォリス検定を用いた。多重比較には、ボンフェローニ補正をしたマンホイットニー U 検定を用いた。身体的・精神的健康に対する影響要因を検討するために単回帰分析(モデル1)および重回帰分析(強制投入法)を行った。ケアリング・マスキュリニティ尺度合計得点を投入したモデル2とケアリング・マスキュリニティ尺度の下位尺度を投入したモデル3で検討した。

ケアリング・マスキュリニティがセルフケアと身体的健康・精神的健康に及ぼす影響

成人男性に対して、Elliott (2016) の理論をもとに筆者らが開発したケアリング・マスキュリニティ尺度、セルフケアを測定する尺度(SCAQ: 本庄, 2015) 身体的健康(Health Practice Index: HPI) 精神的健康(K6)を測定する質問紙を使用し、評価した。ケアリング・マスキュリニティ尺度の下位尺度とSCAQが、男性の身体的健康・精神的健康に与える影響を、仮説をもとに作成したモデルを検証し、改良した。

4. 研究成果

(1) 文献検討

ケアリング・マスキュリニティの研究動向に関する文献検討

CiNii は 1 件、ProQuest では 67 件、医中誌は 0 件、PubMed は 3 件であった。重複文献や英語・日本語以外の言語の論文、書評や新聞記事を除いた 46 件を対象とした。量的研究は 2 件、質的研究 44 件であった。「Caring Masculinities」を初めて Elliott が理論化した 2016 年以降、2017 年 3 件、2018 年 6 件、2019 年 19 件と論文数が急増していた。日本論文は総説で、国際社会のジェンダー政策の展開が述べられていた。他は英語論文であり、社会学領域の質的研究では、育児との関係からケアリング・マスキュリニティを記述しており、「子どもに関わる責任とケアの実践の共有」「育児を通して得られる自信と関係をつくる能力」「男性的な行動にケアを組み込む」といった男性アイデンティティにケアを組み入れることや、早期に育児に関わることにより「子どもと強い絆を結ぶ」ことができるメリットが述べられていた。ケアリング・マスキュリニティを理論枠組みとした看護論文は 1 件で、妻が子宮頸がんの夫の抱く「孤独感」や「傷つきやすい感情を共有する」といった抑圧された感情の表出ができること、妻との関係は相互依存であることを明らかにしていた。

児童虐待と男性性の関連についての研究動向に関する文献検討

対象論文は 28 件で、その内訳は量的研究 16 件、質的研究 8 件、総説 4 件であった。量的研究では、男性性との関連が先行研究で示されている危険なアルコール摂取や薬物乱用、うつ病との関連が半数の論文で示され、長期的なメンタルヘルスに着目した研究もあった。他には、虐待がパートナー選択やパートナーとの関係性に与える影響を男性性の視点から述べている研究などがあった。質的研究では、児童虐待経験者が男性である研究が 4 件と半数を占め、その被害は主に性虐待であり、加害者の特徴として、身体的に強い大柄の男性であることや権威者であることなどの男性性の特徴が示されていた。他の研究では、児童虐待の加害者男性に直接インタビューし、男性的な規範に基づく行動を明らかにした。女性被害者に尋ねた加害者男性の覇権的男性性の様相の調査では、攻撃性や暴力のみならず、感情的な圧力も示していた。他には、女性加害者に被害を受けた者へのインタビューや支援者対象の調査があった。総説 2 件では、家父長制と近親相姦、アルコールの関連などを示し、他の 2 件は、児童虐待防止のための父親の関与を説明していた。

男性がケアに主体的かつ積極的にかかわる要因とは逆に、児童虐待や高齢者虐待などケアにとって望ましくない状況が起こりうる要因にも男性性が関連していると推測した。ダブルケアは、育児と介護を同時に行うものである。それらの過重な状況から、虐待を起こすリスクもあると考え、虐待と男性性の関係を調査する必要があると考え、調査研究を行う前に文献検討を実施した。

男性の育児休業とケアリング・マスキュリニティの研究動向に関する文献検討

ProQuest における対象論文 27 件を対象とした。研究対象は、ほとんどが欧米諸国であり、東アジア人を対象とした論文は 2 件のみであった。東アジアの論文は、男性優位の企業文化や性別役割分業について述べ、ケアリング・マスキュリニティな男性は他の母親たちから歓迎されないことや経済活動を行っていない父親が抱く孤立感などを説明していた。その孤立感は、父親達の精神的健康に影響を与えていた。欧米諸国の論文では、弁護士など社会的地位や収入の高い男性が良い父親になろうと職業アイデンティティに子育てを取り入れようとする姿や、キャリアを達成した男性がケア役割に専念する姿など、これまでの男性性を保ちつつ、ケア役割を自らのアイデンティティに取り入れるケアリング・マスキュリニティが描かれていた。

男性がケアに主体的かつ積極的に関わるために、ケアリング・マスキュリニティには育児休業の取得が大きな影響を与えていると考え、調査研究の前に、文献検討を実施した。

(2) 「ケアリング・マスキュリニティ」の尺度開発

探索的因子分析の結果、4 因子 39 項目に収束し「関係性」「肯定的感情」「支配の拒絶」「相互依存」という ケアリング・マスキュリニティ理論内で示された 4 つの要素をもつ尺度となった。

ケアリング・マスキュリニティ尺度の信頼性は、クロンバック 係数 .871、ICC=.895 ~ .957 であった。妥当性は、収束妥当性 ($r=.986 \sim .998$) 弁別妥当性 ($r=-.252 \sim .622$) から尺度化成功率 100% であり、基準関連妥当性は「平等主義的役割態度スケール (鈴木, 1994), $r=.389$ 」, 「新しい男性役割尺度 (渡邊, 2017), $r=.467$ 」, 「存在受容感尺度 (高井, 2001), $r=.357$ 」と有意に関連している。クロンバック 係数は 尺度全体 .870、各因子 .843 ~ .944、ICC=.895 ~ .957 ($n=52$) であった。ケアリング・マスキュリニティ尺度の 4 つの構成概念は、ケアリング・マスキュリニティ理論で示されている要素と同様となり、信頼性・妥当性が確保された。

わが国における新しい男性性を測定する有用な尺度となることが示された。

(3) ケアに携わる男性側の要因の検討

親の介護を行う就労男性の男性性と介護ケア力の調査

男性は、新しい男性性と古典的男性性の両方を持ち合わせていることがわかり、その新しい男性性と古典的男性性の高低の組み合わせより 5 つの男性性に分類することができた。分析の結果、男性のケア力を高めているのは、介護関連にかかわる属性ではなく、男性性であった。特に、新しい男性性も古典的男性性も両方を高く持っていることが介護のケア力を高めることに関連していた。

ケアリング・マスキュリニティが身体的健康・精神的健康に及ぼす影響

研究協力者 349 名の身体的健康の指標である Breslow の 7 つの生活習慣に基づく健康指数 (Health Practice Index: HPI) 得点は、ケアリング・マスキュリニティ尺度合計 ($\beta=.177$, $p<0.01$) と有意な正の相関が認められた。重回帰分析においてケアリング・マスキュリニティ尺度合計得点は、有意な関連が示され (モデル 2: $\beta=.154$, $p=0.004$) 下位尺度の支配の拒絶得点が高いと HPI 得点が高いという関連が認められた (モデル 3: $\beta=.159$, $p=0.005$)。精神的健康において K6 合計得点は、ケアリング・マスキュリニティ尺度合計 ($\beta=-0.297$, $p<0.01$) 下位尺度の関係性 ($\beta=-0.309$, $p<0.01$) 相互依存 ($\beta=-0.250$, $p<0.01$) と有意な負の相関が認められた。重回帰分析 (モデル 2、3) の結果、CM 尺度合計得点は、有意な関連を示し (モデル 2: $\beta=-0.276$, $p<0.001$) 下位尺度の関係性得点 (モデル 3: $\beta=-0.271$, $p<0.001$) や支配の拒絶得点 (モデル 3: $\beta=-0.187$, $p<0.001$) が高いと K6 得点が低いという関連が認められた。ケアリング・マスキュリニティという、ケアを受容し、覇権的男性性を否定する新しい男性性の考え方を持つことは、男性の身体的・精神的健康に良い影響を与えることから、男性の健康や生活の質の向上に寄与するものである。

ケアリング・マスキュリニティがセルフケアと身体的健康・精神的健康に及ぼす影響

研究協力者 349 名は、平均年齢 40.2 (± 11.36) 歳、育児経験ありが 153 人 (43.8%) 介護経験ありが 48 人 (13.8%) であった。HPI 合計得点は 4.3 ± 1.3 、K6 合計得点は 5.98 ± 5.6 であった。解析結果は、ケアリング・マスキュリニティ尺度の下位尺度のうち「関係性」「肯定的感情」「相互依存」が、SCAQ を介して身体的・精神的健康に影響を与えていた。また、ケアリング・マスキュリニティ尺度下位尺度の「支配の拒絶」は、身体的健康に直接影響を与えていた。精神的健康には、ケアリング・マスキュリニティ尺度下位尺度の「関係性」「支配の拒絶」が直接影響していた。モデルの適合度は十分に高かった ($GFI=0.993$, $AGFI=0.967$, $CFI=0.995$, $RMSEA=0.037$, $AIC=52.815$)。ケアリング・マスキュリニティをもつ男性は、家族などの誰かの世話をするだけでなく、健康のためにセルフケアもできることが明らかになった。

以上より、本研究実施において、男性側がケアに積極的かつ主体的に関わる要因となる「ケアリング・マスキュリニティ」は、今後ダブルケア研究において活用可能であることが明確になった。本研究の知見は、2023 年度新規採択された「育児と介護のダブルケアラーが夫婦協働でケア力を高める健康支援プログラムの開発」(23K10164) へと引き継がれ、継続される。

(引用文献)

- 1) 鈴木淳子, 平等主義的性役割態度スケール短縮版 (SESRA-S) の作成, 心理学研究, 1994;65(1), 34-41.
- 2) 渡邊寛, 伝統的な男性性役割態度尺度作成と信頼性・妥当性の検証, 心理学研究, 2017, 88(5), 488-498
- 3) 高井範子, 他者からの受容感と生き方態度に関する研究: 存在受容感尺度による検討, 大阪大学教育学年報, 2001;6, 245-254.
- 4) 本庄恵子, 基礎から実践まで学べるセルフケア看護, ライフサポート社, 2015

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 吉沢豊予子, 寺田由紀子	4. 巻 12
2. 論文標題 連載 助産師のためのウィメンズヘルス入門 女性caregiverとウィメンズヘルス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床助産ケア	6. 最初と最後の頁 64 - 69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Yukiko Terada, Toyoko Yoshizawa
2. 発表標題 Literature Review on Research Trends on the Relationship Between Childcare Leave and Caring Masculinities
3. 学会等名 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024) Conference (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Yukiko Terada, Yoko Takeishi, Yasuka Nakamura, Mikako Yoshida, Maiko Kawajiri, Toyoko Yoshizawa
2. 発表標題 Impact of Caring Masculinities and Self-care on men's Physical and Mental Health
3. 学会等名 ICN Congress 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 寺田由紀子, 吉沢豊予子
2. 発表標題 児童虐待と男性性の関連についての研究動向に関する文献検討
3. 学会等名 日本フォレンジック看護学会第10回学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 寺田 由紀子 , 荒牧 順子 , 真溪淳子 , 堀内 裕子 , 渋谷 郁恵 , 吉岡 貴美代 , 生天目禎子 , 栗田真由美 , 寺戸聡子
2. 発表標題 医療専門職による育児と介護のダブルケアラー支援団体DC NETWORKと一緒にダブルケアラー支援を考える
3. 学会等名 日本家族看護学会第30回学術集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 寺田由紀子,吉沢豊予子
2. 発表標題 看護の対象である男性を捉える新しい視点 男性性とケアリング・マスキュリニティ
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 寺田由紀子,武石陽子,中村康香,川尻舞衣子,吉田美香子,吉沢豊予子
2. 発表標題 ケアリング・マスキュリニティが身体的健康・精神的健康に及ぼす影響
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 寺田由紀子,荒牧順子,若松千尋,渋谷郁恵,山本未央,柳陽子,吉岡貴美代,堀内裕子,清水修
2. 発表標題 重層的支援体制整備事業における看護職への期待と連携～ダブルケアラー支援を考える～
3. 学会等名 日本家族看護学会第29回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 寺田 由紀子, 武石 陽子, 中村 康香, 川尻 舞衣子, 吉田 美香子, 吉沢豊予子
2. 発表標題 ケアリング・マスキュリティ尺度 (CMS) の信頼性・妥当性の検証
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 寺田 由紀子, 竹田 理恵, 中村 康香, 武石 陽子, 川尻 舞衣子, 吉田 美香子, 吉沢豊予子
2. 発表標題 ケアリング・マスキュリティの研究動向に関する文献検討
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 竹田理恵, 武石陽子, 寺田由紀子, 吉田美香子, 川尻舞衣子, 中村康香, 吉沢豊予子
2. 発表標題 就労中年男性の持つ男性性が親の介護ケアに及ぼす影響
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 渡邊 浩文、森安 みか、室津 瞳、植木 美子、野嶋 成美	4. 発行年 2023年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 子育てと介護のダブルケア	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>育児・介護の"ダブルケア"社会 区民と創る港区の男女平等参画のための情報誌OASIS 2024年3月</p> <p>ダブルケアラーへの支援 「DC NETWORK」の活動を通して(連載) あとがき:ダブルケア支援のこれから NurSHARE 2024年1月15日</p> <p>ダブルケアラーへの支援 「DC NETWORK」の活動を通して(連載) 第1回:ダブルケアとの出会い-支援団体「DC NETWORK」を立ち上げて NurSHARE 2023年3月22日</p> <p>「ダブルケアと仕事の両立を推し進めるために」 東京都 産業労働局 雇用就業部 労働環境課場所・掲載箇所東京都 家庭と仕事のポータルサイト 2021年4月</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	吉沢 豊予子 (Yoshizawa Toyoko) (80281252)	関西国際大学・保健医療学部・教授 (34526)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------